

薬害根絶day 埼玉協同病院薬剤科の活動

埼玉協同薬剤科
若林 純平

【埼玉協同病院の概要】

- 所在地
埼玉県川口市木曾呂
- 診療科目
内科／循環器科／呼吸器科／消化器科／小児科／整形外科
／外科／脳神経外科／産婦人科／皮膚科／放射線科／
麻酔科／精神科／神経内科／眼科／リハビリテーション科／
耳鼻咽喉科／泌尿器科／人工透析／腎外来／血液外来／
甲状腺外来／被爆外来／糖尿病外来／在宅医療
- 病床数
401床(一般347床・回復期リハビリテーション50床・ICU4床)
- 平成16年7月1日より『診断群分類包括評価(DPC)』を導入
- 臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構 病院機能評価 ver,5取得
- ISO9001・14001認証取得

【薬剤科の概要】

- 薬剤師数;常勤23名、非常勤2名
- 処方箋枚数 (以下、2011年度実績)
外来 763枚/日(分業率 83%)
入院 123枚/日
- 薬剤管理指導加算2 251件/月
- 薬剤管理指導加算3 759件/月
- 化学療法混合調製件数 76件/月
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 96件 /月



薬害を起こさないために ～副作用報告・検討(DI委員会)～

日ごろの業務の一環として、外来・病棟で起きた副作用を収集&検討し、厚生労働省へ報告を行っています。

副作用報告件数(2011年4月～2012年3月現在)

	協同	西協同	熊谷	秩父	浦和	大井	かすかべ	おおみや	上福岡	川口	行田	さいわい	所沢	計
副作用件数	37	11	8	2	0	5	27	0	0	0	11	6	2	109

2011年度DI委員会年間報告書より抜粋

埼玉協同病院で 副作用救済制度を利用した例

H.Y 男性 50歳台

救済制度対象薬剤:新プレコールS(市販薬)

副作用診断名:全身性アナフィラキシーショック

給付:医療費・医療手当

救済制度申請日:2011.6

給付決定通知日:2011.12

【経過】

感冒症状があり、新プレコールSを内服。呼吸苦と皮疹が出現。即日入院となる。呼吸苦は当日に改善。皮疹も徐々に改善、入院4日目にはほぼ消失し、退院となる。

入院直後から副作用救済制度の対象となることを患者へ伝え、退院後MSWの助力を借りて、副作用救済制度を申請した。

約5ヶ月後に、給付決定通知が届く。

埼玉協同病院で 副作用救済制度の利用に至らなかった例

O. K 男性 70歳台

救済制度対象薬剤:リウマトレックス

副作用診断名:間質性肺炎

救済制度は本人・ご家族の意向で申請せず。

【経過①】

2011.1より関節リウマチに対しリウマトレックスを開始。2012.5に発熱があり、外来受診。肺炎の診断で外来通院を決めたが、帰宅後に意識障害が出て、救急搬送後入院。抗生剤による治療を継続したが、検査データ上の改善がみられず、リウマトレックスによる薬剤性肺炎を視野に入れていったん中止。DLSTを施行したが、結果が出る前に退院となる。

【経過②】

退院後外来通院でフォロー。DLSTの結果は陽性となった。

副作用救済制度の適応と判断、申請を準備し始めたが、申請書類の作成に時間がかかり、本人・家族ともにそれ以上の書類作成への拒否があり、いったん手続きは中止となる。

まとめ

薬による健康被害を受けた人への適切な救済のための制度なのに、申請の手間から遠慮がちになる患者様もみられます(リウマトレックスの例)。

一方で医師主導による迅速な対応の結果、申請につなげることができた例が「新プレコールS」の例だと思います。

現時点では医療従事者の中での副作用救済制度の認知は進んでいますが、一般の方々への認知はまだ進んでいないように感じます。

そんな中でお薬手帳の普及は病識に対するアドヒアランスの向上に一役を買っていると感じます。この向上が患者側との新しいつながりとなり、よりよい医療への向上につながると信じています。